［科目区分］: 学校教育基礎コース（教育学専修）　　［授業科目名］: 教育本質論
［登録学生数］: 80

平成 27 年度「授業評価・授業研究報告」

学校教育講座　城戸　茂

１　授業の目標及び内容

本授業は､次の２点を目標として実施した。①教育の本質を踏まえ、学校教育及び教師の役割について説明することができるようになること、②現代日本の教育政策の特質を、教育政策の歴史的変遷を踏まえて説明することができるようになることである。また、中核的なＤＰとして、「１Ａ 教育に関する確かな知識」及び「２Ａ 教育をめぐる様々な現代的諸課題」を掲げて取組んだ。

授業内容の概要はシラバスに示したとおりであるが、授業では、まず、教育の本質と目的及び、学校教育の内容と方法について概観した後､明治以降の教育政策の変遷を踏まえ、現代の教育政策の特質及び今日の学校教育と教師の在り方について考察することを通して、教職に関する基礎的な知識の習得と基本的な見方・考え方の育成を目指した。主たる教材は、毎時間印刷配布した資料のほか、参考図書として図書館にあるシラバス図書の中から随時紹介した。

また、授業形態は、受講者数の関係でワークショップ形式で行う授業の実施は限られたが、内容に応じてバズ・セッションを行うなど､対話的な学びの場を意図的に位置付けた。

２　授業評価

次ページの表は、最終回の授業の中で実施したＤＰ対応学生認識調査に関する調査結果である。本調査結果を手掛かりに本授業を振り返ると、次のような成果と課題を挙げることができる。

まず、成果として次の２点を挙げることができる。１点目は、「１Ａ 教育に関する確かな知識」「２Ａ 教育をめぐる様々な現代的諸課題」の肯定率が 90%を超えており、中核的なＤＰとして掲げている「１Ａ 教育に関する確かな知識」及び「２Ａ 教育をめぐる様々な現代的諸課題」については、高い評価結果を得ることができた。本授業では、幼・小・中・高等学校とこれまで学生が受けてきた学校教育の柱について、学習指導と生徒指導の二つの面から、自己の体験や経験を振り返りながら学習を進めることに力を入れてきたことが、基礎的事項の理解の促進と、教育に関する基本的な見方・考え方の形成につながったものと考えられる。

２点目は、「２Ｂ 教育の現代的課題への対応方法」「３Ａ 教育活動に取組むための技能」の肯定率も 90%を超えており、教職に求められる資質・能力の形成にも一定の成果が見られたことである。本事業では、学生の体験や経験を振り返ることや、教育の今日的な課題を具体的に取り上げ、考えさせたことがこうした成果につながったものと考えられる。

一方、課題として次の２点を挙げることができる。１点目として、「４Ｂ 理論と実践を結ぶ主体的学習」「５Ｂ 多世代にわたる対人関係形成力」の否定的な評価が 20%近くあることである。科目の特質から、専門的な理論を深く学んだり、多様な年齢の人と交流したりする機会がないことが影響しているものと考えられるが、授業内容や授業構成の工夫が求められる。

２点目は、授業外学習の時間が「課題」「自発」ともに平均 0.35 時間程度と低いこと、また、自発的読書や自発的活動を全く行っていない学生が 90%以上を占めていることである。授業の中で関連図書等の紹介を適宜行ったりしたが、自主的な活動にまで至っていない｡幅広い内容を取り上げて行う科目であり、学生の興味・関心の高まりをあまり期待できない面があるものの、学生に対する働きかけを工夫していく必要がある。今後、テキストを指定し事前学習や事後学習を求めることを検討することも必要であると考える。

３　本授業における時間外学習促進の工夫

本授業では、授業時間外学習を促進させるため、次の３点を重視して実践した。

１点目は、授業の終わりに次時のテーマを示すとともに、参考図書を紹介したことであ

る。

２点目は､必要に応じて予習課題を提示し、予習を求めたことである。右図の資料は、本時で学んだ生徒指導の理論に関して、学生が中学校や高等学校で体験したことを振り返り、理論に沿って整理してくることを求めたものである。次時の授業では、予習課題として整理してきたものを持ち寄り、グループに分かれて様々な具体的事例に接することを通して、理論に関する理解を深めさせていった。具体的には､「生徒指導は生徒に厳しく当たるものである」というこれまでの固定的な観念から、「生徒指導は機能であり、一人一人の生徒のやる気を高める上で中核的な役割を果たすものである」という認識に変化していった。

３点目は、分かる楽しい授業づくりは、年齢に関係なく、主体的な学習態度の形成に効果があると考え、毎時間の学生の授業評価を基に授業改善を重ね、学生の学ぶ意欲を高めることに努めたことである。本授業では、毎時間､「理解度」と「興味・関心」の２観点からの簡単な評価を試みた。（右図参照）今後、こうした観点に、時間外学習の状況を振り返る観点を設けることも検討したい。

４　今後の課題

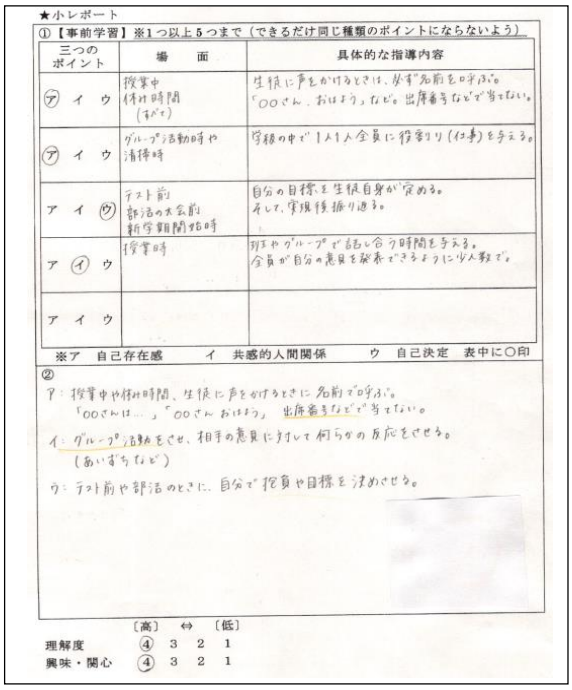
今次の実践は、大学での経験が少ないこともあり、シラバスで計画していたことが十分に実践できたとは言えない状況にあると感じている。この度の授業評価を踏まえ、本学が重視している時間外学習の促進に向け、今後の重点課題として次の３点を設定したい。

１点目は、講座の前半では、指定テキストを活用したり、次時の授業で使用する資料を事前配布したりするなどして、毎時間の予習に重点をおいた取組に重点を置くこと。

２点目は、予習をしておかないと支障が生じると感じるような授業展開を更に工夫すること。

３点目は、講座の後半では、主体的な学習を促す課題設定を重視し、授業外で学習したことの発表の場を計画的に位置付けた授業構成をとること、である。

これら以外にも、方法は考えられるが、次年度はこの３点について重点的に実施することを通して担当授業の改善に取り組みたい。


★小レポート

①【事前学習】※1つ以上5つまで（できるだけ同じ種類のポイントにならないよう）

三つのポイント	場　面	具体的な指導内容
㋐ イ ウ	授業中 休み時間 （など）	生徒に声をかけるときは、必ず名前を呼ぶ。 「○○さん、おはよう」など。出席番号などで呼ばない。
㋐ イ ウ	グループ活動時や 清掃時	学級の中で1人1人全員に役割り（仕事）を与える。
ア イ ㋒	テスト前 部活の大会前 新学期開始時	自分の目標を生徒自身が定める。 そして、実現後振り返る。
ア ㋑ ウ	授業時	班やグループで話し合う時間を与える。 全員が自分の意見を発表できるように少人数で。
ア イ ウ		

※ア　自己存在感　　イ　共感的人間関係　　ウ　自己決定　表中に○印

②

ア：授業中や休み時間、生徒に声をかけるときに名前で呼ぶ。
「○○さんは…」「○○さん おはよう」 出席番号などで呼ばない。

イ：グループ活動をさせ、相手の意見に対して何らかの反応をさせる。
（あいずちなど）

ウ：テスト前や部活のときに、自分で投票や目標を決めさせる。

〔高〕 ⇔ 〔低〕
理解度 ④ 3 2 1
興味・関心 ④ 3 2 1

〔図〕ワークシート

〔表〕 DP 対応学生認識調査結果の度数分布（%）と肯定率（N=55　回収率 69%）

		1	2	3	4	肯定率	
1A	**教育に関する確かな知識**	**69.1**	**29.1**	**1.8**	**0.0**	**98.2**	
1B	自分の専門分野の知識	45.5	41.8	9.1	3.6	87.3	
2A	**教育をめぐる様々な現代的諸課題**	**49.1**	**47.3**	**3.6**	**0.0**	**96.4**	
2B	**教育の現代的課題への対応方法**	**45.5**	**50.9**	**3.6**	**0.0**	**96.4**	
3A	**教育活動に取組むための技能**	**43.6**	**50.9**	**5.5**	**0.0**	**94.5**	
3B	教育活動に取組むための表現力	34.5	50.9	10.9	3.6	85.5	
4A	自己の学習課題の明確化	36.4	50.9	10.9	1.8	87.3	
4B	理論と実践を結ぶ主体的学習	29.1	52.7	10.9	7.3	81.8	
5A	専門的職業人としての使命/責任感	45.5	43.6	10.9	0.0	89.1	
5B	多世代にわたる対人関係形成力	25.5	54.5	18.2	1.8	80.0	
		0	0.5	1	2	6	M
	授業外学習（課題）	40.0	50.9	9.1	0.0	0.0	0.35hrs
	授業外学習（自発）	58.2	32.7	7.3	1.8	0.0	0.31hrs
		0	1	2	3	M	
	自発的読書	94.5	1.8	3.6	0.0	0.09 本	
	自発的活動	94.5	3.6	1.8	0.0	0.07 件	